

特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予察 特殊報第3号

1 病虫害名 和名 トビイロシワアリ（アリ科フタフシアリ亜科シワアリ属）
学名 *Tetramorium tsushimae*

2 発生物種 カンキツ

3 発生経過及び状況

令和4年8月下旬に佐世保市のカンキツ幼木園の枯死および樹勢低下した樹で、地際部および根部表皮の剥離、せん孔などの症状が見られ、これらの症状が発生している樹に共通してアリ類の発生が認められた。

アリ類の形態および樹体の症状から、平成29年に静岡県が特殊報を発表したトビイロシワアリおよび同種による加害の疑いがあると考えられた。

捕獲虫は、形態的特徴からトビイロシワアリと推定されたため、門司植物防疫所長崎出張所へ同定を依頼した結果、トビイロシワアリであることが判明した。

4 被害

苗木及び若木において、主幹地際部に土を盛り営巣し、樹体表皮を食害、くぼんだ食害痕やせん孔痕を形成する（写真1）。被害が進むと外皮が帯状に削り取られた食害痕となる。

根部の被害の場合、表皮が腐敗・剥離する。甚だしい食害を受けた樹は、落葉し、枯死する場合がある。

国内では平成29年に静岡県でカンキツへの被害が報告されており、その他にアブラナ科野菜、ナス、トマト、芝等において本種の被害が報告されている。

本県でも、平成22年にばれいしょの被害について特殊報を発表している。

5 特徴

(1) 分布

国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布し、西南日本では普通にみられる種である。海外では中国、極東ロシアに分布する。

(2) 形態

働きアリの体長は2.5mm前後（写真2）、体色は褐色から黒褐色である。頭部の表面はほぼ平行に縦走する顕著な皺に覆われ（写真3）、胸部は弱い網目状の皺が縦走する（写真4）。

また、フタフシアリ亜科の特徴である2節の腹柄がみられる。

(3) 生態

比較的乾燥した場所を好み、日当たりの良い裸地や植物の根元、石下などに営巣する。

巣の規模は大きく、一つの巣に多数の女王を有する。

雑食性で、昆虫、雑草の子実や発芽直後の芽、植物の甘露、樹液などを摂食する。

6 防除対策

(1) 令和4年10月現在、本種に対する登録農薬はない。

(2) 深耕やかん水による巣の破壊など、物理的・耕種的防除に努める。

(3) 深植により接ぎ木部が土中にある場合は、土を掘り、接ぎ木部を露出させる。



写真1 地際部の食害痕



写真2 成虫（働きアリ 体長2.5mm）



写真3 成虫（頭部）



写真4 成虫（背面）

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所） TEL：0957-26-0027

